

☆第2回学校運営協議会

第2回目の協議会が、7月4日(木)に行われました。主な議題は「本年度の北小学校の教育課題」でした。協議会で出された主な意見を紹介します。



- ・児童自身が「ルールを守る」という気持ちを持つことが大事だし、そういった指導も大切にして欲しい。「自分の体・命は、自分で守る」「困っている人を助ける(思いやりの気持ち)」という気持ちが持てるような児童の育成も大切である。
- ・PTAの朝の旗振りは、交通安全の面だけでなく、防犯の意味合いもある。保護者の旗振りは、時間を守って活動して欲しいし、出られないときは代理を立てるようにしたほうが良いと思う。
- ・引き渡し訓練なども実施したらどうか。
- ・下校中の不審者の対応にも重点を置くことが大切である。
- ・旗振りの時間帯に、児童が通過できるように家を送り出すことも保護者として大切なこと。
- ・各家庭が、我が子の通学路の危険箇所を注意するような意識も持って欲しい。
- ・学校の周りで、事件などがあった場合は、メール等で保護者へ配信するのはもちろん大切だが、地域の団体等にも連絡することで、地域と一体となった取り組みが出来ると思う。
- ・見守りボランティアの放課後の見守りには、毎日、本当にお世話になっている。
- ・地域として、児童の安全・安心のための連絡協議会のようなものがあれば、更に、強固な取り組みになっていくのではないかと。
- ・東北大震災の際、東北地方の学校運営協議会が設置されていた学校では、安全面での取り組みが大変良かったということもあったそうである。本校の学校運営協議会としても、その役割は大きいし、こういった教育課題について、話し合うことは大変有意義である。 など

このような色々な意見が出され、今後も、どんなかたちで学校と協働できるのかを考えていきたいと思えます。協議会の後は、給食試食会がありおいしい給食をいただきました。

☆前号に引き続き、委員の声を紹介します



本堂 晴生 委員 『子どもたちの未来に期待すること』

人は一人一人違いますよね。顔も違うし、何かをするときのやり方も違う、そして考え方も違います。生まれた国も違う人もいます。子どもたちが、自分と違ういろいろな人と話し合ったり、いっしょに何か新しいことをしたり、作ったり、そういうことを学んで、未来は日本でそして世界で活躍する人がいっぱいいるようになるといいと思います。私もいろいろな人と話をしたり、一緒に新しいことを作ったりすることをがんばっています。これからも子どもたちといっしょにがんばりたいと思います。



相澤 千絵美 委員 『皆さんに伝えたいこと・大切にしたいこと』

北小の子どもたちには、いろいろなものに興味を持ち、苦手なものにもチャレンジして欲しいです。ちょっと苦手、嫌い・・・と書いていても実際にやってみたら楽しかった！苦手な食べ物も思い切って食べてみたら美味しかった！という事が世の中にはたくさんあります。これって面倒だな、ちょっと難しそう・・・なんて避けて通っていたら本当はとっても楽しいことに出会いそびれてしまうかもしれません。ぜひ、何でもチャレンジし、やるからには何事も楽しい気持ちで取り組んで欲しいです。とは言っても、お父さんお母さんも一番に願っていることは、みんなが健康で元気に成長してくれる事です。自分の事もお友達のこと大切にして、たくましく、素敵な大人になってください。いつまでもチャレンジする気持ちを忘れずに！！

【裏面に続きます】

☆北小学校の先生との懇談会(7/25)



夏期休業に入った7/25(木)、北小学校の先生方と懇談会を実施しました。約1時間半の時間でしたが、先生方と「子どもたちの安全な登下校について」「北小の子どもたちが更になるための『しつけ』について」の2つのテーマについて有意義な懇談が行えました。

この懇談会は、学校運営協議会が子どもたちや先生方の応援団として機能するよう、実際に先生方の声を聞き交流を深めることを目的に行っています。地域・家庭・学校が一体となって、北小学校の子どもたちの健全育成を図っていきたくと考えスタートしたものです。今回も2つのテーマで色々な意見交換ができました。主な意見を紹介します。

「子どもたちの安全な登下校について」

- ・地域の方々の見守りを含め、たくさんの大人の目が、子どもの安全・安心につながる。
- ・道路の歩き方がよくない児童がいる。2列で歩く、おしゃべりに夢中など、機会を捉えしっかり指導することが大切。家庭でも、我が子の登下校の様子に気をつけることが大切。
- ・児童の送迎では、駐車場ではないところで乗降させる保護者がいる。朝などは大変危険である。
- ・真っ直ぐに帰宅することがまずは大切。(寄り道、友達の家へ勝手に行かないなどの注意が必要である。)
- ・低学年は、学童に行く子が多く、帰宅する子が少ないので、一人にならないように配慮が必要である。
- ・同じ方面と一緒に下校する子を把握しておくとうい。
- ・大きな集団、様々な立場、長期的視点での体制作りが必要なのではないか。
- ・学校でできること、家庭でできること、地域にできることをしっかり行う。 など



「北小の子どもたちが更になるための『しつけ』について」

- ・子どもに生活力が欠けている。生活体験に乏しいと感じることがある。
- ・家庭によっては遅くまで起きている子がいる。学校としては「早く寝よう」という指導を根気強くしていきたい。
- ・学校としては色々な体験をさせてあげたい。「しつけ・ルール」を上から押しつけるのではなく、それをすることの大切さ、理由を理解させるというようにする必要もある。
- ・家庭で、親子で話し合う時間が持てていないように思う。親子の会話の中で色々なことを教えることになると思う。親子の会話をたくさんもてるようにすることも「しつけ」を考える上で大切。
- ・学童での子どもの様子を見ると「食事の態度・マナー」がよくないと感じる。
- ・トイレの使い方も大切。
- ・基本的な生活習慣は、各家庭でしつけることが大切。足りないところは、学校が補うことも必要。
- ・大人の当たり前が、子どもの当たり前ではなくなっている。
- ・言葉遣いは、大人のまねをしていることもある、場面を用いて子どもに言わせる練習も大切、繰り返しやらせることも大切。
- ・朝、眠そうな子が多い。理由とすると、スマホを見ている、習い事で遅くなる、ゲームをしているなどがあるが、ゲームなどの使用時間を決めるなど、家庭でルールを決められるようにするとよい。 など



こういったことも参考にしながら、更に充実した協議会になるようにしていきたいと考えています。また、本年度も「いじめ防止カレンダー」を作成したいと考えています。北地区毎戸配布も計画していますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。